

三陸北部森林管理署久慈支署

タ イ ト ル	アカマツ人工林森林施業技術交流会
実 施 年 月 日	平成24年11月20日(火)
実 施 場 所	岩手県九戸郡野田村和佐良比山国有林85林班い5小班外
参 加 者	局署：三陸北部森林管理署久慈支署 7名 外部：岩手県北広域振興局林務部、久慈市、 南部アカマツ振興センター、久慈地方森林組合、 九戸木材協同組合、支署管内製材業者等 14名 計 21名
<p>【取組の目的・概要】</p> <p>当支署管内国有林（人工林）の蓄積の約41%は、アカマツ人工林である。そのうち、50年生以下の蓄積が全体の約90%であり、森林施業計画の伐採計画指定においても約32%を占めている。その平均径は約22cm程度であり、間伐材はパルプ材としての利用以外に無い状況にある。</p> <p>そのため、間伐等の手入れが遅れており、これは民有林も含めた当地域全体の課題であることから、関係機関と連携し、アカマツ人工林施業による間伐材の利用、活用方法等について現状を認識し、施業する側と利用する側の意見交換により、今後の施業に役立てるために実施した。</p>	
<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者（製材業等）から、アカマツ製品材の品質、現状及び課題について意見を聞くことが出来た。 ・現状の丸太の欠点から、どうすれば欠点を無くし利用拡大を図ることができるかなどについて意見交換ができた。 	
<p>【出された意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカマツは、輪生節、繊維傾斜の特性があるため、製品としてはタイコ梁がベストである。それらの特性のあるアカマツの利用は、現在のプレカット工場では対応が困難であることから、自社で図面等により加工し、出荷できる体制づくりを検討している。 ・輪生節のある製品は、強度が著しく低下するので、若齢段階で枝打を実施すれば利用価値は上がる。 ・集成材として利用した場合、節の欠点を除去すると製品歩止まりが20～30%しかないため、現実としては利用は難しい。 	
<p>【今後の課題】</p> <p>集成材加工者、パルプ買受者等の参加者がなかったことから、各事業所の利用状況、製品等を見て、再度、生産者と使用者の意見交換を実施する必要がある。</p>	



開催の挨拶



生産事業（間伐の状況）の説明



アカマツ間伐材の確認



アカマツ間伐材の確認



間伐事業現場説明



アカマツ製材者からの活用法等の説明